

「三陸ジオパークVR」を制作、公開スタート 岩手県委託事業 県公式サイトやIBCのVRアプリで ～三陸ジオパークの魅力が360°映像で発信～

岩手県の委託事業としてIBC岩手放送(代表取締役社長 鎌田英樹)が制作を進めてきた「三陸ジオパークVR」が完成し、25日から岩手県の公式サイトやIBCのVRアプリ「VR IWATE 360°」などで公開が始まった。「三陸ジオパークVR」は、岩手県が最先端のVR(仮想現実)映像で、三陸ジオパークの魅力が発信するもの。岩手県内の放送局で唯一VRアプリを展開し、放送局ならではのVR技術を持つIBCが受託し、昨年秋から制作を進めていた。

VRコンテンツは三陸ジオパークの魅力が4つのストーリーを通じて発信する長編(10分程度)4コンテンツと、市町村がSNSを通じて各ジオサイトの特徴を発信できるようにした短編(各1分)18コンテンツをあわせて22コンテンツ。すべて英語と中国語にも対応している。360度をぐるりと撮影できるVRカメラとドローンを組み合わせて、三陸沿岸の勇壮な断崖を撮影した映像は圧巻。また普段は非公開で、今回特別に許可を得て撮影した震災遺構内部のVR映像も貴重なコンテンツ。

このVR映像は、岩手県の公式YouTubeサイト、IBCのVRアプリ「VR IWATE 360°」などで配信されるほか、岩手・青森・宮城の計9か所の施設でも専用のVRゴーグルを使って体感できる。



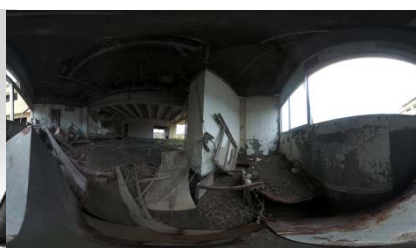
【VRゴーグル内に配置された22コンテンツの選択画面】



【VRカメラでの取材風景】



【専用VRゴーグル】



【震災遺構内部の貴重なVR映像】



【IBCのVRアプリ】